

琴平丘陵山行報告

【山行日】2023年 4月 16日(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 6:00

【費 用】マイカー2台 : 1900円

【メンバー】CL:鈴木、SL:大西

飯口、飯野、伊藤、大塚、嶋田、島田、
関、藤原、渡辺

【コースタイム】岩舟支所 P6:00=道の駅「ちちぶ」7:20/7:40～秩父駅 7:50/8:24+++影森駅
8:29/8:40～大淵寺 9:00/9:05～岩井堂
9/30/9:35～399mピーク 10:35～羊山公園

11:30/12:20～道の駅「ちちぶ」13:00/13:15=道の駅「はなぞの」13:55/14:15=岩舟支所 P15:50

琴平丘陵に行きたいと云うリクエストがあり、羊山公園の芝桜の時期に合わせて計画した。

いつものように国道50号線を足利に向かい、大泉町を抜けて熊谷市を通り国道140号線を進み道



の駅「ちちぶ」に車を止める。出発の準備を整え、トイレを済ませたら秩父駅に向かって歩いて行く。秩父駅から秩父鉄道に乗って2駅目の影森駅で下車し、駅前でストレッチを行ってから出発する。駅前の道を左に進み500mほど歩き、十字路を左折して踏切を渡ると秩父札所27番の大淵寺に着く。本堂を参拝し安全登山を祈願して、石段を登り御影堂の裏から山道に入る。杉木立の中を緩やかに登り大きな岩が分岐になっており、左に進んで護国観音の前に出る。大きな白衣観音立ち、観音様の前方の眺望が素晴らしい。

観音様の裏側から登山道に戻るが、岩場が濡れていて滑りやすく慎重に降りて行く。ここからは緑

豊かなハイキングコースとなり、爽快に歩くことが出来た。杉木立の中や自然林の新緑の道が交互に現れ、右手には武甲山が眺められる。錆びた鉄の橋を渡り円融寺から登ってくる石段を過ぎると、秩父札所26番の岩井堂に着く。岩井堂は岩壁の上に建つ舞台造りのお堂で、清水寺に似た立派なお堂である。石段を登って行くとお堂の脇に出て、舞台に登ることが出来る。お堂の裏が石窟になっていて、石仏や祠が祀られている。



石窟の中を抜けて登山道が付けられており、岩場を通って階段を登ると修験堂と呼ばれるお堂に着く。修験堂は岩場の上に建てられたお堂で、板張りの檜はかなり高度感がある。

ここで休憩を取りおやつタイムとなり、菓子やコーヒーを美味しくいただいた。ここから岩場に付けら



れた長い鉄製の階段を下り、登山道に降りて尾根道を進む。気持ち良い尾根道を進むと東屋が立つ長者屋敷跡に出て、大きく左にカーブして進む。しばらく進むと急坂を登り、本日のコース最高点398.8mピークを通過する。新緑の自然林が陽射しを受けて萌黄色に輝いており、爽やかな風を受けながら爽快に歩いて行く。やがてスギ林の中を九十九折れに下って行き、山の神の社を過ぎると沢沿いの道を歩く。沢を渡ると道路に出て、左折してしばらく道路を歩いて行く。案内

標識が立つ所から再び山道を登り、登り切ると再び道路を歩くようになる。右手に羊牧場が見えてくると、まもなく羊山公園芝桜の丘入口に着く。入口でトイレを済ませたら入場券を購入し、芝桜の丘へ入って行く。チュウリップやネモフィラの花壇の向こうにピンクの絨毯が広がり、皆さんから「ウワ～素敵！」と歓声が上がるが、12時を過ぎたのでベンチを確保しランチタイムとする。いくつかのベンチに分かれて座り、持ち寄った惣菜をお皿に分けておにぎりやパンをいただ



いた。皿には沢山のお惣菜が盛られ、これだけでもお腹いっぱいになってしまう。ランチが済んだら芝桜の丘を散策し、すり鉢状の園内を上から下へゆっくり2周する。芝桜の岡は、秩父のシンボル武甲山とのコラボが素晴らしく、ピンクや淡い青色の花の向こうに武甲山が堂々と聳えている。芝桜の鑑賞が済んだら帰路につき、園内の道を歩いて道の駅「ちちぶ」に向かった。住宅街の道を抜け国道140号線に出たら右折し、国道沿いに10分ほど歩くと道の駅「ちちぶ」に着く。靴を履き替えトイレを済

ませたら車に乗り帰路につく。途中、道の駅「はなぞの」に寄り、トイレとお買い物を済ませて岩舟支所に向かう。渋滞も無く順調に走り、予定より早く岩舟支所に帰着した。緑豊かな自然とふれあいながら歴史を感じる史跡を巡り、芝桜やネモフィラの花を楽しめ大満足の山行となった。